

●本学での研修内容

本学の研修は主に附属鍼灸治療所で行われる臨床見学(鍼灸治療)を中心に行う研修であり、鍼灸についてある程度知識があることが前提となります。また、研修中の指導の鍼灸師と患者さんの会話(患者さんの主訴や愁訴、患者さんへの治療の説明)は全て日本語で行われるため、研修員の日本語力は研修の成功不成功を左右する重要なポイントとなっています。一般の研修制度であればシステムチックにカリキュラムを作り、同じ内容での研修となりますが、本研修においては日系研修員の日本語力と東洋医学的な教育レベルに個人差があるため、受け入れ時にインタビューを行い、個々の研修員の状況に合わせたスケジュールを作成してマンツーマン的な研修を行っています。研修期間は短期は約3か月間、長期は約10か月間となりますが、研修最終日には関係者の前で研修生自身が日本語で作成した研修報告書の発表を行う研修報告会が開催され、これをもって研修は修了となります。



平成 26 年度のブラジルからの研修員修了式後の記念撮影。

学長から日本語と英語の研修修了書が授与されます。

●学外研修について

本研修では研修期間中に全日本鍼灸学会が開催されている場合、担当者が同行して学会に参加しています。また、長期研修では国内屈指の東洋医学に関する医療施設や鍼灸治療者を訪ねて研修する学外研修を行っており、研修先として、これまでに福岡、愛媛、東京などの遠隔地や大阪市内、和歌山、京都などで実施しています。

本学の継続した日系 JICA 研修員受け入れは、鍼灸という伝統医療を介した東西医学の交流として、日本と南米諸国間の国際協力事業の一環として JICA から高い評価を受けており、今後も日本鍼灸を学びに来日する研修員を受け入れ、積極的な国際交流を推進していく予定です。



学外研修の修了後、福岡大学病院前にある「ヒポクラテスの誓い」のモニュメントの前で記念撮影。

左から研修員(ブラジル)、JICA 研修担当者、研修員(ブラジル、アルゼンチン)。